

開講計画 全5回／各90分

回	日付	曜日	10:50~12:20
1	7/8	月	光源氏の「帝王の相」実現
2	7/22	月	桐壺帝の政治—親政と院政—
3	8/5	月	弘徽殿女御の政治—母后と妻后—
4	8/26	月	光源氏の政治—冷泉帝の後見—
5	9/9	月	匂宮立太子の可能性—皇統の行方—

受講料 6,500円

定員 20名

『源氏物語』の政治と王権を 様々な人物の視点から読み解きます。

『源氏物語』は私たち現代読者にとって、プレイボーイ光源氏の恋愛物語というイメージが強いですが、この作品の魅力はそれだけではありません。実は、『源氏物語』は中世以降、さまざまな主題を有する作品として享受されてきました。そのひとつに、王権の物語・政治の物語としての読み方があります。光源氏は、時の帝の皇子として生まれ、臣籍降下してからは、政治家としての人生を歩みます。その時点で、帝を頂点とする宮廷社会の王権ヒエラルキーからは、逃れられない存在なのです。また、平安時代の政治体制・婚姻制度・生活習慣は、現代とは何もかも異なります。そうした「歴史」を踏まえることは、『源氏物語』を正しく読むのに必要な手続きです。

本講座では、主人公・光源氏だけでなく、桐壺帝・弘徽殿女御・左右大臣家など、それぞれの立場から物語の政治と王権を多角的に分析します。平安時代にタイムスリップした気持ちになって、『源氏物語』の世界を覗いてみましょう。

講師

本学教育学部
たかはし まおり
高橋 麻織

テキスト・教材

毎回プリントを配付。

受講上の注意、受講日に持参するもの等

筆記用具